

令和4年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	10	01	03	1041C0	人権教育研究推進事業費		
総合計画	分野	03	人づくり	政策	02 学校教育の充実		
	施策	02	豊かな人間性の育成				
目的	人権教育研究指定校に指定された花巻北中学校生徒の人権意識の醸成を図るため、人権教育の推進に資する事業を行う。						
対象	花巻北中学校生徒						
意図	自分の大切さとともに他人の大切さを認めることができる。						
事業概要	○人権教育研究指定校事業 177千円 人権教育研究指定校に指定された花巻北中学校において、人権教育に関する講演会やいじめ・情報モデルに係る生徒会活動、全国中学生人権作文コンテストへの応募を行い、人権意識の醸成を図る。						
市民参画の有無							
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標			単位	区分	R03	R04	R05
1	人権教育に関する講演会			回	計画	4.00	
					実績	4.00	
2					計画		
					実績		
3					計画		
					実績		
成果指標			単位	区分	R03	R04	R05
1	「すべての人が大切にされなければならないと思う」生徒の割合			%	目標	98.00	
					実績	98.00	
2	「人権問題（差別・偏見）をなくすために行動しようと思う」生徒の割合			%	目標	92.00	
					実績	96.00	
3					目標		
					実績		
成果指標の達成度		目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
講演会や生徒会活動を通じて、人権に関する知的理解を図るとともに、各種活動に主体的に取り組むことで人権意識・意欲・態度の向上を図ることができた。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	学校において人権教育を推進するための事業であり、公共関与は妥当である。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
○ 妥当でない		
有効性	成果の向上余地	人権教育研究指定校の取組を他校へ周知することにより、各校の人権教育の推進を図ることができる。
	○ 向上余地がある	
	向上余地がない	
○ 向上余地がない		
効率性	事業費・人件費の削減余地	人権教育研究指定校において人権教育を推進するための事業に必要な最小限の経費のため、削減余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
○ どちらも削減余地がない		
公平性	受益と負担の適正化余地	学校において人権教育を推進するための事業であり、公費負担は適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
○ 適正である		
総合評価	今年度の振り返り	講演により、今日的課題（外国人・障がい者への差別・偏見）への知的理解を図り、生徒会を中心にウクライナ人道支援・平和祈念・福祉活動等に主体的に取り組むことで、生徒の人権意識・意欲・態度の向上を図ることができた。また、講師を地域の関係団体等から招くことで、継続的に地域連携を行う土台づくりができた。
	次年度に向けて	令和4年度においては、「学ぶ（知る）」ことに重点を置き、生徒の視野を広げ、思考を深めることで人権意識の向上を図ったが、令和5年度においては、「自ら主体的に他生徒とともに学習活動に参加し、協力的に活動し、体験する」取組を通して人権感覚を育む。

令和4年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	05	01	104400	学校文化活動事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	02 学校教育の充実	
	施策	02	豊かな人間性の育成			
目的	児童生徒の文化活動の振興・発展を図るため、補助金を交付し支援する。					
対象	市中学校文化連盟 市内小中学校の児童生徒					
意図	児童生徒が意欲的に文化活動に取り組めるよう、事業を行うことができる。 芸術文化に親しみをもち、意欲的に活動に取り組む。					
事業概要	○花巻市中学校文化連盟事業補助金 50千円 市中学校文化連盟が実施する各種事業に対し補助 ○音楽コンクール等出場事業補助金 86千円 市内中学校の文化部等の大会出場経費の一部を補助					
市民参画の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	補助件数（中文連）	件	計画	1.00	1.00	
			実績	1.00	1.00	
2	補助件数（音楽コンクール等）	件	計画	4.00	4.00	
			実績	1.00	5.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R03	R04	R05
1			目標			
			実績			
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
補助金交付事業のため、活動指標をもって成果とみなす。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	文化活動の充実、特色ある教育の展開と心の教育の充実に繋がり、児童生徒の合唱や演劇などへの取組を支援することは、豊かな情操を養うことに資するものであり、公共関与は妥当である。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	日ごろの練習の成果を発揮し、発表する大会が開催されることで、文化活動の一層の振興が図られることから、成果の向上の余地がある。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	大会運営のための事業費は必要最小限で計上されており、削減の余地はない。
	<input type="radio"/> 事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	補助の対象は、市内全中学校で構成する組織及び市内全ての児童生徒であり、公費負担は適正である。
	<input type="radio"/> 受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	発表の場を提供するなどの連盟の取組等に対し補助金を交付し、中学校における文化活動を支援することで、感情や情緒を育み、心を豊かにする情操教育の充実を図った。
	次年度に向けて	児童生徒の文化活動が円滑に行われ、活動内容の更なる飛躍、ひいては児童生徒の情操教育の充実化に繋げるため、継続した支援が必要である。

令和4年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	01	03	104860	キャリア学習支援事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	02 学校教育の充実	
	施策	02	豊かな人間性の育成			
目的	自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力（生きる力）の育成を図るため、市内外における各種活動を支援する。					
対象	児童生徒					
意図	自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力（生きる力）が身につく。					
事業概要	○体験的な学習の充実 5,970千円 各小中学校が総合的な学習の時間等に農業体験、伝統芸能継承活動、職業体験、福祉体験、被災地訪問や防災に関する授業等を実施 ○生徒会ボランティア活動支援 229千円 各中学校生徒会が自ら企画・実施するボランティア活動（地域清掃、花壇整備、除雪等）に対する支援					
市民参画の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	取組学校数	校	計画	28.00	28.00	
			実績	28.00	28.00	
2	参加児童生徒数	人	計画	16,000.00	16,000.00	
			実績	12,926.00	14,829.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	自分が住んでいる地域には良いところがあると思うと答えた児童の割合（小学校）	%	目標	95.00	95.00	
			実績	94.00	92.00	
2	自分が住んでいる地域には良いところがあると思うと答えた生徒の割合（中学校）	%	目標	87.00	87.00	
			実績	88.00	88.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度			目標値より高い	<input type="radio"/>	概ね目標値どおり	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
体験学習やボランティア活動を通じて、自分が住んでいる地域の良さを改めて知ることになった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	児童生徒が自ら学び、考え、主体的に判断することにより、よりよく問題を解決する力（生きる力）が育成されることを目的としているため、公共関与は妥当である。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	<input type="radio"/> 見直し余地がない	各校において独自の創意工夫により計画・実施しているところであり、今後の成果の向上も期待される。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	地域体験の移動手段に係る経費が大部分であり、交通費の高騰を考慮すると事業費の削減は難しい。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	<input type="radio"/> どちらも削減余地がない	市内の全小中学校において取り組まれている事業であり、公費負担は適正である。
	受益と負担の適正化余地	
	受益機会の見直し余地がある	
総合評価	<input type="radio"/> 適正である	各小中学校における体験的な学習や各中学校生徒会によるボランティア活動を支援することにより、児童生徒が自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力（生きる力）の育成が図られた。
	今年度の振り返り	
	次年度に向けて	
		各校においては、独自の創意工夫によりキャリア学習を実施しているところであるが、児童生徒の生きる力を育成するため、更に特色あるキャリア学習を推進し支援する必要がある。